

第 9 期湖南省高年齢者福祉計画・介護保険事業計画策定のための
アンケート調査結果の概要

＜関連する項目の分類＞

◎つながりの希薄化 □外出・移動手手段 ☆認知症への対応 ○その他
※調査の対象者と配布数（資料1-②P1）

（1）家族や生活状況について

- ◎家族構成について、一人暮らしは、ニーズ調査で 13.2%（資料1-②P5）、在宅介護実態調査で 22.6%（資料1-②P50）であり、令和元年度在宅介護実態調査と比べると、10.7 ポイント増加しており、支援を必要としている要支援・要介護認定者で一人暮らしの方が多い傾向がみられます。
- 介護や介助をしてくれる人について、ニーズ調査では「配偶者」（資料1-②P7）、在宅介護実態調査では「子」が最も高い割合（資料1-②P51）となっているとともに、令和元年度調査に比べどちらも配偶者の割合が減少し子の割合が増加しています。介護者の年齢は在宅介護実態調査で令和元年度調査に比べ 60 歳以上の割合は増加（資料1-②P52）し、67.2%が 60 代以上、36.8%が 70 代以上となっており、老老介護の状況がうかがえ、90 代の親を 60 代の子が介護しているような状況も増えていることが予測されます。
- 住まいの種類について、ニーズ調査では一戸建てが 8 割（資料1-②P9）を占めています。

（2）日常生活について

- ニーズ調査では、食事の用意では 3 割程度（資料1-②P24）が「できるけどしていない」「できない」となっており、在宅介護実態調査においても介護者が行っている介護で「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 7 割前後（資料1-②P53）となっており、配食や家事援助等の支援のニーズが高いことがうかがえます。
- ◎ニーズ調査では、友人の家を訪ねているか、友人の相談にのっているかでは、女性の方が「はい」の割合が高い（資料1-②P27）一方、病人を見舞うことができるかでは男性の方が「はい」の割合が高く、圏域別でみると「石部中学校圏域」で若干低くなっています（資料1-②P27）。男性では交友関係が希薄である点、女性では移動手手段の確保が難しい点などがうかがえます。

（3）社会参加について

- ◎ニーズ調査では、「趣味がある」は 69.7%（資料1-②P28）となっている一方で、「生きがいがある」が 53.0%（資料1-②P28）にとどまっています。生きがいの内容をみると、「子ども、孫の成長」や「家族との生活」（資料1-③P28）などが多くなっており、一人暮らし高齢者が増加傾向にある中で、自分自身が生きがいを感じられることを見つけることが必要であることがうかがえます。
- ◎ニーズ調査では、会・グループ、社会参加活動等への参加状況について、「町内会・自治会」等の割合が高く（資料1-②P30）、身近な地域における活動への参加が多いことがうかがえます。また、「収入のある仕事」も 12.6%（資料1-②P30）となっており、高齢期の仕事についても検討が必要です。
- ◎ニーズ調査では、地域活動への参加意向として、「是非参加したい」「参加してもよい」の合計は 5 割（資料1-②P32）を超えており、参加のきっかけづくりが必要であることがうかがえます。
- ◎ニーズ調査では、家族や友人・知人以外の相談相手について、「そのような人はいない」の割合が 35.8%（資料1-②P35）と最も高くなっており、要介護認定を受けていない人や年齢が若いほど「そのような人はいない」の割合が高くなっています（資料1-②P36）。身近な

相談場所、相手の確保と周知が必要であることがうかがえます。

(4) 家族介護について

- 在宅介護実態調査では、介護のために仕事を辞めた介護者が約1割(資料1-②P54)となっており、前回よりやや減少しています。また、介護者の年齢を見ると50代以下が3割程度(資料1-②P52)となっています。
- 介護者への勤め先からの効果的な支援の希望について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が29.3%(資料1-②P77)と最も高くなっているとともに、令和元年度調査と比べ「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が上昇しており、事業者への啓発が重要です。
- 在宅介護実態調査において家族などがほぼ毎日介護をしている割合は42.9%(資料1-②P51)であり、前回より11.2ポイント減少しています。

(5) 介護サービス・介護保険制度について

- 在宅介護実態調査では、今後充実させるべきサービスについて、「自宅で受けるサービス」が49.5%、「施設(特別養護老人ホームなど)」が38.1%、「制度に関する情報提供」が36.3%、「気軽に相談できる窓口」が33.5%(資料1-②P59)となっています。施設等への入所・入居の検討状況では60.1%(資料1-②P55)が「入所・入居は検討していない」となっており、在宅志向が高いことがうかがえます。
- 在宅介護実態調査では、サービス利用の組み合わせについて、要介護1以上の単身世帯では「訪問系を含む組み合わせ」が高い一方、夫婦のみ世帯やその他世帯では「通所系・短期系のみ」の割合が高くなっています。(資料1-②P81)
- 事業所調査では、介護人材の確保状況が『確保できてない(「確保できていない」「あまり確保できていない」の合計)』は3割以上(資料1-②P86)となっています。外国人材の活用について「すでに雇用している」と「予定がある」の合計は3割程度(資料1-②P88)となっています。
- 「地域包括支援センター」への相談経験の有無について、『相談したことがある(「何度も相談している」と「1度相談したことがある」の合計)』は、ニーズ調査では9.6%(資料1-②P44)、在宅介護実態調査では43.9%(資料1-②P59)と大きく差があります。地域包括支援センターについて、要介護状態になる前からのさらなる周知が必要であることがうかがえます。また、ニーズ調査では、圏域別にみると『相談したことがある』は、『日枝中学校圏域』で最も低くなっています。(資料1-②P44)

(6) 物忘れ・認知症について

- ☆ニーズ調査では、物忘れの状況について、「物忘れが多いと感じる」が43.5%(資料1-②P21)と令和元年度調査から4.6ポイント上昇しており、日枝中学校圏域で最も高くなっています。「何月何日かわからないことがある」が22.2%(資料1-②P22)となっており、これらの結果から想定される認知症につながるリスクがある人は85歳を超えると急増(資料1-②P48)することがうかがえます。
- ☆本人や家族、友人・知人に認知症の方がいる割合は9.1%(資料1-②P43)ですが、自由記述においても「認知症になったときの不安」に関する内容が30件と多い(資料1-②P46)ことや、在宅介護実態調査において介護者が不安に感じる介護で、「認知症状への対応」が29.8%(資料1-②P64)と、令和元年度調査から4.4ポイント低下していますが、引き続き高くなっています。
一方で認知症に関する相談窓口の認知度はニーズ調査では29.3%(資料1-②P43)にとどまっており、特に日枝中学校圏域で低く、地域包括支援センターの場所や機能を含めて、さらなる周知が必要であることがうかがえます。

(7) 運動・閉じこもりについて

- ニーズ調査では、「階段を手すりや壁をつたわずにのぼっている」で『できるし、している』が 53.9% (資料1-②P9) にとどまっております、「転倒に対する不安は大きいか」に対する『不安(「とても不安である」「やや不安である」の合計)』が 50.1% (資料1-②P10) となっていることとあわせ、転倒予防を図るためには、要介護状態になる前からの対策が必要です。
- ニーズ調査では、「骨折・転倒」が要介護状態になった要因の高い割合(資料1-②P6)を占めていることや、要介護度の悪化につながることも多いため、転倒予防の取組が必要であることがうかがえます。なお、令和元年度調査に比べ、「高齢による衰弱」の割合が上昇しています。
- 「昨年と比べて外出回数が減っている」について、ニーズ調査では『減っている「とても減っている」と「減っている」の合計』が 32.6% (資料1-②P12) となっています。外出を控えている理由は「コロナ禍のため」が多くなっています(資料1-②P13)が、閉じこもりから心身の状態の悪化につながっていることが懸念されます。
- ニーズ調査では、外出する際の移動手段について、「自動車(自分で運転)」の割合が 66.3% (資料1-②P14) となっており、甲西北中学校圏域では7割以上となっています(資料1-②P15)。運転免許証の返納を考えているのは 18.1% (資料1-②P16) にとどまっております、運転できなくなった際の移動手段の確保が必要であることがうかがえます。なお、ニーズ調査では、返納後の移動手段について「自動車(人に乗せてもらう)」が最も高く(資料1-②P16)、「自転車」「路線バス」と続いています。

(8) 口腔・栄養について

- ニーズ調査では、「歯磨きを毎日している」が 89.2% (資料1-②P18) となっているものの、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」は 32.6% (資料1-②P18) となっており、引き続き継続した啓発をしていくことが必要です。
- ◎ニーズ調査では、食事の状況について、だれかと一緒に食事をしているか、共食の機会についてみると、「毎日ある」割合は 59.7% (資料1-②P20) にとどまっております、孤立化の状況が懸念されます。

(9) 健康・介護予防について

- ニーズ調査では、健康状態が「とてもよい」と「まあよい」の合計が 78.0% (資料1-②P38) となっていますが、現在治療中、または後遺症のある病気について、「高血圧」が 41.5%、「目の病気」が 16.1%、「糖尿病」が 13.8% (資料1-②P42) となっており、健康を維持する取組の支援のため健康政策課との連携が重要であることがうかがえます。
- ニーズ調査では、会、グループの活動に参加している人ほど、幸福度の平均点(6.96点)(資料1-②P39)が高くなっています。(資料1-②P103) また、「ボランティアのグループ」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」などの自主的・主体的に参加していると思われる活動の方が、『参加している』人の幸福度の平均点が高くなっています。
- ☆ニーズ調査では、運動機能リスクや転倒リスク、認知症リスク等、年齢が上がるにつれて該当者が多くなっており、特に運動機能リスクについては、80歳以上で該当者が急増しています(資料1-②P48)。また、85歳以上では、閉じこもりリスクと認知症リスクが急増しており、運動機能の低下からこれらのリスクが高まっていることがうかがえます。